

## II 「桜の宮」周辺

### 1. JR「桜ノ宮」周辺

#### (1) JR「桜ノ宮駅」

- ・明治31年4(1898)4月、城東線の玉造駅～梅田駅間が開業した2年半後に設置された。
- ・明治34年12月には、片町線が放出駅から分岐して網島駅と結ばれていた線が桜ノ宮駅まで延伸され、桜ノ宮駅が梅田駅(大阪駅)から四条畷方面への乗換駅となっていたが、大正2年(1913)11月にこの線(桜ノ宮線)は廃止され、片町線は京橋駅での乗換に変更された。
- ・駅名は、この地域が駅南側にある「桜宮神社」に因み、「桜宮」と称されていたことによる。
- ・ホームは相対式2面2線で、ホーム両端に西口・東口の2つの改札口がある。西口は大川の堤防にかかる築堤上にあるため、改札口が線路面とほぼ同じ高さになっており、南側の源八橋に通じているため、春の花見時や天神祭の時には混雑する。
- ・ホームに沿った南側に、UR都市機構の賃貸マンション2棟が東西に建っている。かつて京阪電鉄が京橋から梅田に乗り入れる計画があり、その「桜ノ宮駅」用地とされていた地で、その後国鉄社宅であった場所にあたる。又、ホーム東側のガードはこの計画路線用に京阪電鉄が費用負担して設けた名残とされている。

#### (2)「源八橋」

- ・昭和10年に城北運河の開削によって周辺の工業開発がにわかに進み、大阪市第2次都市計画事業により、昭和11年(1936)6月に架橋された。橋の名は江戸時代にあった「源八の渡し」に因んでいる。

その後、交通量の増大に伴って、昭和46年に東側の右折レーン設置のため北側が拡幅され、平成10年には西岸に大阪アメニティパーク(OAP)が開業したことで、歩道が拡幅された。(長さ201m。幅14～17.5m) 天神祭りでは船渡御の見物で賑わう。

#### 「源八の渡し」

- ・『摂津名所図会大成』には、「樋の口のほとりにあり、天満源八町の濱より中野への舟渡しなるを以て名付くるなるべし 世に名高し」とある。
- ・左岸の都島側は農村地帯であったが京街道に近く、右岸側は大坂城代配下の役人が住む官舎街であった。渡しを東へ越えたところに「中野の梅林」があり、また兩岸の堤は桜の名所として名高く、大そう賑わったとされる。与謝蕪村はこの梅林の情景を織り込んで、「源八をわたりて梅の主かな」の句を残している。
- ・「源八」の名は、源八町という町名からとったとも、人の名に因むともされている。
- ・明治40年に大阪市営となったが、昭和11年に橋が架けられて廃止された。(橋の西岸北寄りに、「源八渡し跡」碑が残されている。)

### 2. 桜宮・都島周辺

#### (1)「市立総合医療センター」

都島区都島本通2丁目13

- ・大阪市制100周年記念事業として「市立医療機関の体系的整備」が定められ、平成5年12月に大阪市の中核病院として開院した。これにより、市内にあった「桃山市民病院」(昭和21年開院)・「城北市民病院」(昭和28年開院)・「小児保健センター」(昭和40年開院)・「母子センター」(昭和21年開院)・「桃山病院」(明治20年開院)が統合廃止された。
- ・12の臓器別センターおよび救命救急センターと58の診療科を擁し、1063床の病室を有している。大阪府災害拠点病院であるほか救急告示病院(第3次救急医療機関)、第一種・第二種感染症指定医療機関、地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、結核指定医療機関、各種福祉法指定医療機関などに指定されている。

#### もと「大阪市電都島車庫」

- ・この地には、大正11年(1922)7月に開設された「大阪市電都島車庫」(開設当時220両

収容)があった。

昭和20年の空襲で全焼したが、翌21年に復旧されており、昭和44年4月、都島本通～阪急東口間の市電廃止(市内の全市電廃止)に合わせて閉鎖された。

その後、大阪市交通局の施設やグランドおよび大阪市営バスの操車場として使用されていたが、隣接する淀川駅・淀川電車区の跡地とともに再開発計画が策定され、平成5年に「市立総合医療センター」が開設された。

現在、同医療センターの東側に不自然な三角形の敷地(駐車場)があるのは、都島車庫の敷地の名残である。

## (2)「桜宮リバーシティ」

都島区中野町5丁目

・上記の大阪市電都島車庫の西側に隣接して「淀川駅(貨物駅)」および「淀川電車区(国鉄車両基地)」があった。淀川貨物線の基点とされた淀川駅は、昭和2年(1927)12月に開設されて昭和57年11月に廃止され、国鉄・環状線と片町線の車両基地であった淀川電車区は、昭和7年10月に開設されて昭和60年3月に廃止された。(次章・38頁参照)  
・その跡地が、「大阪市住まい公社」ほかの高層マンション団地として開発された。

### 「桜宮リバーシティ・NAC」

14-1-2号

・「大阪市住まい公社」による高層タワーマンションで2棟あり、1号棟は地上27階・地下1階建て(平成4年10月・築)、2号棟は地上12階・地下1階建て(平成5年1月・築)で全245戸。

### 「桜宮リバーシティ・中央」

14-4-5-6号棟

・「住都公団(現・UR都市機構)」による高層マンション(地上12～14階建て)が3棟あり、平成2年4月完成で全177戸。

### 「桜宮リバーシティ・ウエスト」

13-1-2号

・「住都公団(現・UR都市機構)」による高層タワーマンションで2棟あり、1号棟は地上23階建て(平成3年3月・築)、2号棟は地上12階建て(平成3年2月・築)で全199戸。

### 「桜宮リバーシティ・コープ21」

14-3号

・民間企業による地上15階・地下1階建ての高層マンション(2棟・188戸)で、平成2年3月に完成した。

### 「桜宮リバーシティ・ウォータータワープラザ」

13-3号

・民間企業による地上41階・地下1階建ての超高層タワーマンション(304戸)で、平成4年3月に完成した。

## (3)「桜宮公園」

・大川端両岸に広がる市営の総合公園で、大正12年(1923)3月に開園した。

大川東岸に「桜宮神社」(後記)が鎮座しており、両岸の桜並木は江戸時代から「桜の名所」として知られている。

・この付近の大川ではボート同好者が練習する姿もみられ、東岸には大阪市立大学漕艇部の艇庫が置かれており、現在も5月に市民レガッタが開催されている。

### 「桜宮橋(銀橋)」

・南森町と東野田・京橋を結ぶ国道1号線の大川に架かる橋で、昭和5年(1930)に架橋された。長さ188.85m・幅員23mのアーチ橋(戦前では、日本最大のアーチ橋)で、アーチが銀色に塗装されていることから「銀橋」の愛称で親しまれている。

・平成18年12月、南側に併行して同型の「新桜宮橋」(長さ150m)が架橋され、桜宮橋は東行、新桜宮橋は西行の一方通行となっている。

## (4)「藤田邸跡公園」

都島区網島町10

・桜宮公園の南側に続く都市公園(桜宮公園の一部)で、もと藤田財閥の総帥である藤田男爵家の邸の一部であった。邸の北西部にあたり、表門を含めた庭園部は長らく放置されていたが、大阪市が入手し、JR東西線の工事の後(工事中は大阪城北詰駅新設工事の

資材置き場等に使用)に整備されて、平成16年に開園し一般公開された。

・淀川左岸の平坦な地形であったことから、起伏に富む地形を人工的につくり出して作庭した庭園で、南北方向の築山、滝、流れ等を基本的な構成とし、北の高い滝石組みからの流れや築山中央の流れと急峻な築山の組み合わせが庭園の中心となっている。

#### (5)「太閤園」

都島区網島町9

・藤田伝三郎が明治43年(1910)頃、子息のために築造した邸(網島御殿)のうちの東邸(淀川邸)を改装し、昭和34年にオープンした藤田観光が経営する宴会場・結婚式場・レストランで、平成20年に開催された”サミット財務大臣会合”の晩餐会場にあてられた。  
・敷地内には、2階建て和風建築の「淀川邸」、4階建て洋館造りの「迎賓館」、チャペルを付設した2階建て宴会場の「桜苑」、結婚式場「豊生殿」があるガーデンホール「別館」が建ち、“心”の字に配された池を中心とした築山式回遊庭園が広がっている。

・なお、かつての藤田邸の敷地は、現在、中央部が「藤田美術館」、東部が「太閤園」、南部が「大阪市公館(現:ザ・ガーデンオリエンタル大阪)」、北西部が「藤田邸跡公園」となっている。

・藤田伝三郎(1841~1912)は長州の出身で、明治維新後に陸軍用達などで蓄財し「藤田組」を創設、大阪紡績・阪堺鉄道・宇治川電気などの創設に指導的役割を果し、大阪商法会議所の第2代会頭(五代友厚のあと)も勤めて、民間人で初めての男爵となった。

#### (6)「大阪市公館(迎賓館)」「ザ・ガーデンオリエンタル大阪」 都島区網島町10

・もと藤田邸の西邸があった地で、昭和18年(1943)に大阪市が取得し「市立実業会館」として使用していたが、空襲で焼失したあと、昭和34年に大阪市が「大阪市長公館」として迎賓館を建築し、平成19年に「大阪市公館」と改称された。

・公館は旧・大阪証券取引所(北浜)の設計でも知られる竹腰健造の設計による2階建て白亜の洋館で、1階が迎賓館として使われ、2階に市長執務室、応接室などがあった。

・東庭と西庭があるが、東庭には茶室「二水亭」があり、その両側には小川が流れている。茶室のある場所を中之島、両側の小川を堂島川と土佐堀川、その小川が注ぐ池を大阪湾に見立てた趣向となっており、当時の中井光次市長が「二水亭」と命名した。

・橋下徹市長の時、自治体の外交戦略は大阪府が中心に担うべきだとする方針によって、平成26年3月に閉館したが、大阪市は土地・建物を民間業者に貸与して活用することとし、公募の結果、平成26年11月にレストラン、会議、宴会や結婚式場を伴うレストラン・ブライダル施設の「ザ・ガーデンオリエンタル大阪」としてオープンした、

#### (7)「藤田美術館」

都島区網島町10

・もと藤田邸中央部の本邸跡(昭和20年の空襲で焼失)に残置されていた鉄筋コンクリート造りの蔵を改装し、昭和29年(1954)5月に「藤田美術館」として開館した。

・所蔵品は中国、日本の絵画・彫刻・工芸・書蹟・考古資料など多岐にわたり、特に茶道関係の名品が多く、うち9件が国宝、52件が重要文化財に指定されている。

・これまでは展示室スペース不足から、春・秋の特別展の際にのみ開館されていたが、平成29年からリニューアル工事が行われており、令和4年4月に再開予定である。

・敷地内に、大正5年に高野山の光台院から移築された檜皮葺の多宝塔が残されている。(空襲で焼失を免れた数少ないものの一つ。)

・この地は、近松門左衛門の『心中天網島』で有名な、小春・治兵衛が心中した「大長寺」がもとあった場所にあたる。(後記参照。大長寺は明治45年に現在地に移転された。)

#### (8)「都島区役所」

都島区中野町2丁目16

・都島区は、昭和18年(1943)4月に増区(22区制)があった時、北区の淀川以東と旭区の城東貨物線以西が分区されて誕生した。

・都島区役所は、昭和23年1月に現・都島本通り3丁目(現・マンション「都島コーポ」)に設置されたが、昭和41年1月に地上3階・地下1階建て現庁舎が新築され移転した。



しが、同所は其の創建の地なりといふ。後、慶長18年(1613)の冬再建せられしも、元和6年(1620)大和川の洪水により社殿流出して本地なる社有地に漂着しければ、其の地に社殿を建てて祀りしも、低地なりしを以て宝暦6年(1755)更に今の地に遷座し給へり。然るに明治18年(1885)の洪水に際して社殿大破し、同24年再建せられたるもの現在の社殿是なり。明治5年(1872)郷社に列し、同40年、北区兎我野町の無格社若宮八幡宮、同41年、東成郡鯉江町大字新喜多の村社・新喜多神社、同42年、同郡城北村大字毛馬の同・八幡大神宮、同年、善源寺町八幡の産土神社を合祀せらる。…」とある。

・昭和20年の大阪大空襲で全焼したが、社殿は戦後に復興している。

・周辺地域の地名である「桜宮」の由来となっている。

・善源寺町1丁目(善源寺楠公園内)に「桜宮神社御旅所」があり、明治42年、桜宮神社に合祀された八幡神社の旧蹟とされている。この点について『桜宮神社参詣の栞』に、「当地氏地善源寺町御旅所に、武将の渡辺綱、駒(愛馬)をつなぎし由緒正しき樹齡推定800余年の稀に見る大楠樹あり(「駒つなぎの樟」と称される)。昭和の当初、大阪府が天然記念物保存法に則り、第1号を以て指定せられしも戦災のため枯死し、…」とある。

### (11)「都島神社」

都島区都島本通1丁目5

・当地は大川の左岸にあたり、かつては度々洪水に見舞われた。平安時代後期に後白河法皇が当地へ行幸した際にこれを哀れんで、当地の鎮守として神社を置くよう命じたことから、毛馬村・友洲村など8村が協力して永暦元年(1160)に「十五社神社」を建立したのが始まりで、昭和18年(1943)に「都島神社」と改称された。

十五社神社の名は、天照大神を初めとする15神を祀っていることによっている

・社殿は太平洋戦争末期の空襲で焼失したが、昭和24年に再建されている。

・境内に立つ石造三重宝篋印塔は、鎌倉時代後期の嘉元2年(1304)の銘があり、市内最古の石造遺物として大阪府の有形文化財となっている。

### (12)「大長寺」

都島区中野町2丁目1

・慶長10年(1605)、毛利輝元の一族である佐々木高久が外祖父の毛利定春の冥福を祈って建立した浄土宗の寺院。

江戸時代は現在地より約500m南の現在「藤田美術館」のある場所(網島)にあったが、明治42年(1909)、藤田伝三郎によって邸宅用地として買収され、藤田家の寄進により、同寺は現在地に移転した。(同寺は、明治18年の淀川大洪水で被害にあっていた。)

・近松門左衛門の『心中天網島』で有名な小春・治兵衛が心中した場所として知られ、境内に「小春・治兵衛の比翼塚」がある。

享保5年(1720)10月に、妻子ある紙屋治兵衛と遊女の小春が網島の同寺で心中するという事件があり、その事件をもとにして近松門左衛門が事件の2か月後に書き下ろしたのが『心中天網島』である。

・また、比翼塚の隣に「鯉塚」がある。同寺の「鯉塚の由来」によれば、「寛文8年(1668)、淀川で捕った体と鱗に巴紋のある大きな鯉を見世物にしたところ、しばらくして死んだので大長寺に葬ったが、その夜住職の夢に巴紋をつけた甲冑姿の武士が現れ、自分は大坂の陣で戦死した者で、殺生の報いによりこの様な姿になったが貴僧の弔いで成仏できた。と告げたので。住職は「滝登山鯉山居士」と戒名をつけて碑を建てた。」とされており、これが鯉塚であるとされている。

### (13)「母恩寺」

都島区都島本通1丁目20

・「十五社神社」の建立を命じた後白河法皇は、仁安3年(1168)に母・待賢門院の菩提を弔うため、同神社の北側に建立した浄土宗寺院で、「産んでくれた母への恩返し」の意を込めて名付けられた。山号は「法皇山」とされ、尼寺として代々皇女が住持を勤めた。かつては、数箇所の荘園を有する大寺院であったが、度重なる淀川の洪水や兵火にあい、廃仏毀釈の影響もあって衰微し、現在の境内に落ち着いた。本堂は平成4年に新築されている。

・『摂陽群談』(元禄14年刊)によると、本尊の阿弥陀如来は恵心僧都源信の作とされる。また、この寺の尼僧が作る美しい綿帽子は「湊上江(カスガエ)の綿帽子」として有名だった。「鶴塚(ヌヅカ)」… 寺から南東に約500mの場所に「鶴塚」がある。

・平安時代に京で源頼政が退治した鶴(ヌ)の遺骸を淀川に流したところ、この地にたどり着いた。付近の村人たちはその祟りを恐れて母恩寺の住職に吊ってもらい、鶴塚を建立したとされる。明治時代に取り壊されかけたが、鶴の怨霊が地元住人を悩ませたため、慌てて修復されたと伝えられている。

(14)もと「桜宮スケートリンク」 都島区中野町2丁目3

・東野田交差点の西北側に屋内型アイススケート場の「桜宮スケートリンク」があった。昭和28年(1953)に当時のブームに乗って開設されたもので、子供からカップルまで多くのファンで賑わった時期もあったが、設備の老朽化もあり、平成4年3月に閉鎖され、跡地に、同年11月、屋外式ゴルフ練習場「桜宮ゴルフクラブ」が開設された。

(15)「都島中学校」 都島区中野町3丁目9

・昭和33年(1958)4月、従来の大阪市立桜宮中学校の校区の一部を分離し、開校した。この地は、戦災復興に伴う土地区画事業で公園用地として計画されていたが、学校敷地に用途変更されて新築された。

・大阪市立総合医療センターに院内学級が設置されている。

(16)「大阪拘置所」 都島区友淵1丁目2

・昭和32年(1957)12月、工場跡地(日本製糖・城北工場跡)に庁舎・舎坊等が新設され、北区若松町から移転してきた。同拘置所は、明治36年に大阪府監獄署から分離して扇町の「堀川監獄」として設置され、大正7年には大阪地方裁判所に隣接する若松町へ移転、昭和16年12月に「大阪拘置所」として独立したものの。

<参考> 拘置所と刑務所… 判決が出る前に入れられる所が拘置所で、有罪となった場合に収容される所が刑務所。但し、有罪であっても死刑囚だけは拘置所に残される。

(17)「ベルパークシティ」(もと「カネボウ淀川工場」) 都島区友淵1丁目7・5・4

・「ベルパークシティ」A～O棟の15棟の高層マンション群が立ち並ぶ、三井不動産ほか3社が開発した大規模マンション団地で、その北側には三井不動産の「ベルパークシティ・アネックス」3棟の高層マンションが建っている。

・この地は、もと「カネボウ淀川工場」の跡地であり、その前はチューインガム「ハリス」の本社工場であった。

チューインガム「ハリス」は、昭和27年(1952)創業の菓子メーカーで、社名は幕末の初代駐日公使タウンゼント・ハリスに因んだ名とされており、その名から連想してリスをシンボルマークとし、本社入口脇にリスの飼育ケージが置かれていた。

しかし、創業者の病気もあって、昭和39年に隣接する「カネボウ」に吸収されて「カネボウハリス」の工場となり、その後「カネボウ淀川工場」となっていたが、昭和57年に全面閉鎖され、その跡地を大阪市が市内へ通勤するサラリーマン向け住宅団地造成を行った。

・ベルパークシティという名前は、「カネボウ」(鐘=ベル)および三井系のブランドである「パーク」を合わせたものとなっている。

「ベルパークシティ」

A棟…昭和58年3月築。15階建て。166戸

C棟…昭和59年7月築。16階建て。250戸

E棟…昭和59年2月築。15階建て。207戸

G棟…昭和62年2月築。36階建て。329戸

I棟…昭和63年7月築。15階建て。187戸

K棟…昭和62年7月築。15階建て。242戸

B棟…昭和58年3月築。15階建て。126戸

D棟…昭和60年2月築。16階建て。250戸

F棟…昭和61年2月築。15階建て。118戸

H棟…昭和60年7月築。15階建て。249戸

J棟…平成元年2月築。36階建て。328戸

L棟…平成2年2月築。15階建て。117戸

M棟…平成元年7月築。15階建て。248戸      N棟…昭和63年2月築。10階建て。103戸  
 O棟…平成2年2月築。15階建て。132戸

② G棟(36建・高さ116m)は、100m以上の超高層マンションとしては日本第1号となる。

「ベルパークシティアネックス・イースト棟」…平成5年7月築。14階建て。全103戸  
 「ベルパークシティアネックス・ウエスト棟」…平成3年3月築。14階建て。全154戸  
 「ベルパークシティアネックス・センター棟」…平成4年3月築。27階建て。全175戸

(18)「セントプレイスシティ」(もと「十条製紙都島工場」)      都島区善源寺町2丁目

・もと「日本製紙(旧十条製紙)都島工場」と西側に隣接した同社社宅の跡地が整備され、マンション団地「セントプレイスシティ」と「セントプレイス大阪」になっている。

・「日本製紙(旧十条製紙)都島工場」は、大正3年(1914)に帝国製紙の工場として操業開始したもので、その後、王子製紙を経て昭和24年(1949)に十条製紙・都島工場となり、平成5年に合併で日本製紙と社名変更されていたが、平成12年3月に閉鎖された。

・「セントプレイスシティ」(1170戸)      都島区善源寺町2丁目2(6~8)

「セントプレイスタワー」…平成24年2月築。38階建て。445戸

「セントプレイスグランドコンフォルト」…平成21年3月築。15階建て。248戸

「セントプレイスグランドプレミオ」…平成21年12月築。19階建て。477戸

・「セントプレイス大阪」(1084戸)      都島区善源寺町2丁目2(1~5)

「セントプレイス大阪アーバンコート」…平成19年3月築。15階建て。222戸

「セントプレイス大阪ウスタリアコート」…平成19年3月築。15階建て。409戸

「セントプレイス大阪ガーデンアクアコート」…平成18年1月築。15階建て。286戸

「セントプレイス大阪ブライトコート」…平成18年1月築。12階建て。82戸

「セントプレイス大阪パークサイトコート」…平成18年3月築。13階建て。85戸

昭和34年(1959)頃の都島北部周辺マップ

